

## 私が考える家事について

私は高校2年(2017年)の時に糸井塾を起業し、「家事は生きる力を育む」をテーマとして小中学生に家事の意義や方法を伝えている。家事を通してさまざまな生きる力を身につけた子供達は、将来の日本を明るく照らすと信じている。

さて、私は、幼少期から当たり前にするものという認識で手伝いや家事をしてきた経験から、家事は性別年齢など一切関係なく、協力してするもの、自分を人間的に成長させるものであると考える。幼い子供でもできる家事はたくさんあり、家事をどのような順序、方法でするのかを考えることによって想像力や計画性が鍛えられる。また、家族から「ありがとう」と感謝されることで自信が付き、やりがいを感じる。日常的に他人のために働き、それにやりがいを感じていれば家事以外の場面でも当たり前のこと

のように周りに気を配ることができるようになるだろう。

最近、イクメン、男性の家事参加など夫婦や家事に関する話題は、私たち高校生でさえもよく耳にする。女性の社会進出が急速に進み、男女平等という考え方が当たり前となった現在の日本では、「男は仕事、女は家事」というステレオタイプは過去のものとなりつつあり、それに伴い、家事においても夫婦平等が理想とされる。しかし、自分の妻には家事に専念してもらいたいという男性も数多く、そのような夫をもつ妻たちは、自分の理想の生活を送られず、悩みを抱えている。実際に、マクロミルの調査で6割以上の家庭において、妻が70%以上の家事を負担している事が分かっている。(『日経MJ』2018年12月17日)

私は、家事に消極的な人がいる原因は、彼



くめい りゅうそう  
糸井 龍三  
糸井塾塾長  
慶應義塾志木高等学校3年

らが家事を面倒なものとして捉えているからだと思う。つまり、家事は面倒くさいからしたくないのである。その原因は経験不足にあるかと思われている。家事の経験が少ないため、大人になっても家事は自分がするものではないと思っており、上手くできないのである。幼少期から家事を当然のこのようにしていれば、大人になっても家事に抵抗がなく、結婚した後も上手に家事をシェアできるのではないだろうか。また、家事をしてこなかった人は今からでも始める事で、思っていたより簡単だと判るだろう。つまり、男女平等が当たり前ならば、夫婦間も平等であるべきであり、また自分自身の「生きる力を育む」ためにも幼少期からお手伝いや家事をすることが当たり前になるべきなのである。

糸井塾HP (<http://kumeijuku.com/>)

# Cutting-Edge

[カティング・エッジ]

ジェンダー問題解決の  
カギを提示する  
最前線書誌情報誌

MOVE  
この人  
にきく

## 「男女共同参画」と平成



なとり  
名取 はにわ  
学校法人日本社会事業大学理事長  
(元内閣府男女共同参画局長)

平成30年は、財務省事務次官によるセクハラ事件、多くの大学医学部入学試験における女性差別など、女性の人権侵害事件が数多く顕在化した年だった。声を上げた被害女性達の勇気を讃えるとともに、多くの人々が被害者を支持したことを喜びたい。

翻って、平成2年、国連経済社会理事会において、「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略に関する第1回見直しと評価に伴う勧告及び結論」が採択された。これを受けて、男女共同参画を担当する行政機関が強化され、平成6年、総理府に男女共同参画室と、3年時限の男女共同参画審議会が設置された。

私が男女共同参画室長に就任した平成7年、第4回国連世界女性会議が北京で開催され、行動綱領が採択された。ヒラリー・クリントンはファースト・レディとして、会議の昼休みに「女性の権利は人権であり、人権は女性の権利である」と演説した。日本から5千人の女性達が訪中し、女性を巡る状況が世界共通であることを認識し、勇気づけられた。

平成9年、男女共同参画審議会設置法が成立し、時限の審議会は恒久化した。

平成10年、小淵総理は、平成13年に内閣府を新設し、そこに男女共同参画局を設置すると発表した。唯一の局新設だった。

平成11年、男女共同参画社会基本法が通常国会で成立した。衆参両院とも全会一致。参議院で、超党派により「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけ」る前文が付いた。今、中学生が公民で基本法を学んでいる。基本法は、野中広務内閣官房長官兼男女共同参画担当大臣のご功績である。北京会議から基本法成立までの輝かしい期間、室長を勤めることができて幸せだった。

平成13年、内閣府男女共同参画局が設置された。男女共同参画審議会は、男女共同参画会議となり、経済財政諮

問会議、総合科学技術会議、中央防災会議と並ぶ重要会議と位置付けられた。これをもって、内閣府が、日本の男女共同参画のナショナル・マシーナリーとして、広く認知されることとなった。

同年10月、配偶者暴力防止法が施行された。

平成15年、バックラッシュのただ中、私は男女共同参画局長に就任した。日本の少子化が進むのは、女性が社会進出するからだと思われた。そこで、OECD国際比較調査を行ったところ、先進諸国は、女性の社会進出により、一時出生率が下がるものの、仕事と育児の両立支援策により、出生率はV字回復をしている。日本は、女性の社会進出が進まず、出生率が低下し続けているとわかった。仕事か出産か、2択社会の日本。家事・育児は女性の仕事とされ、男性の家事・育児参加度が、極めて低い日本。

平成17年12月、第2次男女共同参画基本計画が閣議決定された。防災、科学技術を盛り込み、2020年までにすべての分野における指導的地位に占める女性比率30%目標を掲げた。平成18年退官した。

平成27年、女性活躍推進法が成立し、翌28年4月1日完全施行された。この法律は、男女共同参画社会基本法を基にしており、女性の人権を重視している。

平成29年、強姦罪を強制性交罪とすると共に重罰化し、強姦罪等の非申告化等刑法が改正された。

平成30年、政治分野における男女共同参画推進法が議員立法により成立した。

平成を通して、男女共同参画について、様々な法制度が整えられ、推進機構が強化されてきた。

だが、世界は進んでいる。国連は、2030年までに、ジェンダー平等を達成する予定だ。平成30年世界ジェンダー・ギャップ指数110位(149か国中)の日本は、本気で男女共同参画に取り組まなければならない。

## & MORE

### テーマ「日本で育ったアフリカ少年のまなざしから見えてくるもの」

しもじ よしたか  
下地 ローレンス吉孝 (大阪市立大学都市文化研究センター特別研究員)

カメルーン生まれ日本育ちの著者が、面白く、時に真剣に問いかけるように、自らの日常の断片をコミック・エッセイとしてまとめた話題作だ。

日本社会では近年、海外ルーツの人々がますます増加しているが、日常生活ではまだまだ外見や言葉に結びつく固定的な思い込みや偏見が残っている。姫路で育ったアフリカ少年は、生まれ持った自らの肌の色や外見と、流暢な日本語とのギャップによって、周囲から時に戸惑いのまなざしを向けられるという。「俺は描いて伝える!」—アフリカ少年は、自らの境遇に対してこう答えた。

全ページがマンガで読みやすいばかりでなく、ページをめくると何度も思わず笑ってしまう。周囲から向けられるさまざまな反応に対して、「こてこてのアフリカ系関西人」としてすかさずツッコミを繰り出すのだ。また本書の中盤には、肌の色について思い悩む少女の元に未来の自分から手紙が送られてくる、「泣いてば

- まんが アフリカ少年が日本で育った結果
- 星野 ルネ 著
- 毎日新聞出版
- 2018年初版
- 1,000円(税別)



かりの私へ」という印象的な物語も登場する。各エピソードには「周囲と違っていてもいい」、「自分の価値を見つけてほしい」というメッセージが散りばめられている。

父から学ぶ「日本文化」、母から学ぶ「アフリカ文化」の中で育った少年の目を通じて見える社会のあり方から新しい発見が得られるはずだ。「日本人とは?」「日本社会とは?」「日本文化とは?」と、もう一度自らに問い直してみたい。